

情報工学部の地域連携活動

情報工学部 研究院長 梶原 誠司



社会における大学の使命として、

まず思い浮かぶのは教育と研究です。世の中に役立つ学生を社会に送り出すこと、および、優れた研究成果により科学技術の発展に資することは、重要な大学の使命です。教育と研究を遂行していく過程において、地域社会に貢献していくことも、大学の重要な使命の一つです。地域貢献には、地域が抱える課題を自治体、教育機関、地元企業等と一緒に解決を試みるだけでなく、大学にとっても教育研究の成果を実証する場を地域に提供していただいているという側面もあります。

情報工学部は1986年に飯塚の

地にキャンパスを構え、30年余り経過しました。学部創立からこれまで、地元の自治体、教育機関、企業等とは、教育・研究のみならず文化・産業・観光の振興等において様々な機会を捉え連携を進めて参りました。しかしながら、地域の皆様からは、

「大学は必ずしも身近な存在ではない」、「大学は敷居が高い」といったご意見もよくいただきます。そうした中、本学は昨年4月に飯塚市、嘉麻市、および、桂川町の2市1町と包括連携協定を締結し、幅広い分野で協力関係をより一層強化しようとしています。

現在、情報工学部では、様々な地域連携の活動を行っています。活動の主体は教員だけでなく、技術職員や学生の場合もあり、授業の一環として教員と学生が共同で実施することもあれば、自治体や産業界の協力を得て学生サークルが実施することもあります。活動の目的も、地元地

域の方々に大学を身近な存在として感じてもらうため、子供達の「理科離れ」を防ぎ工学や情報への関心を高めるため、ICTに関する基礎的スキルまたは高度なスキルを身につけるため、または、外国人留学生との英会話による語学力向上の機会を提供するため等、様々あります。具体的な活動としては、

・ 一般市民の方が情報工学の歴史や最先端研究に触れるISGFエスタ（実験）とサイエンスカフェ（講義）

- ・ 学生の嘉飯桂地域の中高生向けICTキャンプへの参加
- ・ 小中学生や一般の方を対象にしたプログラミングコンテストやアイデアコンテスト
- ・ 学生サークルによる飯塚市の小学生や働きたい女性向けパソコン教室
- ・ 技術職員による小中学生向け科学実験教室
- ・ 教員の持つ持っている情報技術の地元自治体の課題解決への応用等、多岐にわたっています。

特に最近では、小学校におけるICT教育の導入が進んでいく中で子ど

も達がプログラミングに必要な論理的な思考を身につけるための機会を提供することや、情報工学部で学んだ学生が地元企業のことを知り地元に着するきっかけを与えること等は、現在地元が抱える重要課題となっております。情報工学部の持つ人的資源や教育資源を効果的に活用してそうした問題に対処することは、双方にとって大きなメリットがあります。

今回は明専会報の紙面をお借りして、情報工学部が最近実施している地域連携活動の実例3件を少し詳しく紹介いたします。これらの活動は、いずれもテレビや新聞等のマスコミでも再三取り上げられ、また、期待以上の効果をもたらしていることから地域と本学の双方に大きなインパクトを残しています。これらの記事を通じて、情報工学部の地域貢献活動の一端をご理解いただければ幸いです。